

総務文教常任委員会会議録

(令和4年11月22日)

愛 南 町 議 会

愛南町議会総務文教常任委員会会議録

本日の会議 令和4年11月22日(火)
招集場所 議員協議会室

出席委員

委員長	石川秀夫	副委員長	尾崎恵一
委員	池田栄次	委員	金繁典子
委員	原田達也	委員	那須芳人
委員	吉村直城		

欠席委員

なし

出席委員外議員

なし

傍聴委員外議員

なし

職務のため出席した者

議会事務局長	本多幸雄	局長補佐	小松一恵
--------	------	------	------

説明のため出席した者

(総務課)

課長	立花慶司	主査	山口昌
----	------	----	-----

本日の委員会に付した案件

- (1) 所管事務調査(机上審査)
 「公共交通システムの調査研究」
- (2) その他

開会 13時30分

閉会 14時14分

○尾崎副委員長 皆さん、お疲れさまです。

それでは、予定の時刻となりましたので、ただいまから総務文教常任委員会を始めたいと思います。

会に先立ちまして、石川委員長より御挨拶がございます。

○石川委員長 午前中の会議に引き続きまして、お忙しい中を全員参加いただきまして、ありがとうございます。

今日は、公共交通システムの調査研究ということで、所管事務調査の件を執行部のほうからも説明をいただいて、今後の取組方法、取組の内容を決めていきたいなというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

○尾崎副委員長 それでは、早速内容に入ってまいります。

進行、取りまとめ、委員長、お願いいたします。

○石川委員長 まず最初に、総務課より資料を含めてですね、お手元のほうに届いておりますので、説明をしていただきたいと思います。

立花総務課長。

○立花総務課長 失礼します。

それでは、総務課のほうからあいなんバスの現状について説明をさせていただきます。

1 ページを御覧ください。

資料は、あいなんバスの過去5年半の乗車人数の実績を示すものとなっております。

あいなんバスは、平成18年4月1日、「岩水・大僧都線」、「小山・正木線」、「広見・上大道線」、「増田・中川・満倉線」の4路線で運行を開始し、以来。宇和島バスの廃止路線を補完する形で路線を拡大してまいりました。現在では、町内8路線で運行しており、町内全域の支線系統を担うまでとなっております。

運行に当たっては、町内のタクシー事業者で組織する、愛南町旅客運送業組合に運行業務を委託しており、町と組合で連携して対応に当たっております。

令和4年度上半期のあいなんバスの乗車人数実績を見ますと、新規路線である「武者泊・城辺線」と「外泊・城辺線」が上位を占めるなど、非常に多くの方に利用していただいている状況でございます。

参考までに、資料の2ページから9ページまではあいなんバスの時刻表と路線図、10ページと11ページが宇和島バスの時刻表となっております。また、最終の12ページには町内の公共交通機関の一覧表を添付しております。バス事業者が2者、タクシー事業者が8者、介護タクシー事業者が1者の状況であります。

以上、簡単ではありますが、あいなんバスの利用状況を中心に説明とさせていただきます。

○石川委員長 ただいま説明をいただきました。

御質問がある方、ありましたら、よろしくお願いいたします。

那須委員。

○那須委員 1日4便から5便のところもありますけども、1日平均が10人以下ぐらいのところというのは、恐らくもうゼロで空気運んだみたいなもんやと思うんですよ。その辺、どの辺の時間帯がもうほとんどゼロですよというのが、これは分かりますかね。

○石川委員長 立花総務課長。

○立花総務課長 お答えさせていただきます。

利用状況、頻度のところなんですけれども、朝1便の利用がどの路線もやはり一番多いようでございます。午後を回って、大体傾向でいきますと、病院、買物を午前中に行かれて、お昼前後で帰る便も当然帰られる方が多いので利用が多いです。お昼から夕方の間ですね、その時間帯が多分利用実績がどの路線も一番少なく、最終便につきましては、学生さんが帰路につくところで利用されているというような傾向にあるかと思っております。

○石川委員長 原田委員。

○原田委員 このあいなんバスは一応路線が決まって、停留所も決まっていますよね、これ。このバスについては、停留所以外でもバスが来たらバスにすぐに乗れるということなんです、この乗車する人たち、停留所に来て待つて乗る人と、あと、その停留所以外から乗車する人の割合というのは分かりますか。

○石川委員長 立花総務課長。

○立花総務課長 お答えさせていただきます。

どこで乗られているかというところはですね、正直統計を取っておりませんので、例えばフリー乗降のところで何人乗られているというのはちょっと分かりかねるところではありますが、大多数は停留所で待たれて乗降されるというのが多い状況にあるかと思っております。

○石川委員長 尾崎副委員長。

○尾崎副委員長 先般の9月の議会のときに、今の8路線の中で買物とか通学のニーズが満たされていないコースがあるということで、具体的には敦盛・大僧都とか一本松の増田・広見・上大道線、このあたりがちょっとコースを変えて南宇和高校とかフジ前をあえて通るようなコースに変えてはどうかというちょっと質問をしたんですけども、その後要望を聞いたり、また会もあるけん、また検討していきますということやっただけですが、現在のところどんな状況なんでしょうか。

○石川委員長 立花総務課長。

○立花総務課長 お答えさせていただきます。

来月12月の20日に、地域公共交通会議を諮るところが予定をしております、そういった声があったことを踏まえて協議をしていただく場が、まずあるかと思っております。

それと、関係機関であります宇和島バスさんのほうとも、そういった意見があったことを踏まえて協議はしておりますが、ただ、コミュニティバスですね、やはり廃線になったところを補完する形での運行というのを基本的に運輸局のほうから許可をいただいておりますので、なかなか不便だからということだけでバスの路線の延伸でありますとか、路線の変更ですね、そういったところはなかなか難しいところがあるのかなというふうには感じております。

また、その分についてこうなりましたという結論には至っておりませんので、また、最新版の協議が終わったところで御報告をさせていただければというふうに考えております。

○石川委員長 原田委員。

○原田委員 今回のテーマですが、委員長が提案されたようなんですが、委員長として今回の所管事務調査どういう方向に持っていきたいのかなという、ちょっとそこらあたり、委員長の意見を聞きたいんですが。

○石川委員長 まずですね、現状を把握した上で、利便性が悪い路線があるということで、一般質問でも出ましたので、そのあたり見直しができるのかどうなのかも含めてですね、将来方向として、今、運輸局の許可云々というのがありましたけども、まずはやっぱりこの乗車率を上げてですね、利便性がよければ、多分この1日10人以下というのは、利便性が悪いんで乗りにくいというような状況になっているんじゃないかなと。そういうことを、やっぱり実態として捉らまえて、ルートも含めてですね、提案していきたいというふうに思っています。

金繁委員。

○金繁委員 今、国に提出する地域交通計画の見直しを3月末までにつくるということで、いろいろアンケートもされて進めていらっしゃると思うんですけども、その中で、今回のこの総務委員会、先ほど委員長がおっしゃったようなことを具体的に盛り込むものになるのでしょうか。そのまま盛り込めと言ってるんじゃないかと、計画としてはどのぐらい具体的なことを入れるのか。もし抽象的な内容になるのであれば、その後いろんな具体的なことをその後、4月以降に考えていくということができると思うんですけど、ある程度具体的なことまでやってしまう

んですよというんだったら、委員会も急いでやらないといけないのかなと思ってお聞きしているんですが、どんな感じの内容になりそうですか。

○石川委員長 立花総務課長。

○立花総務課長 現時点でお答えできる範囲内でお答えさせていただくことになることを御了承ください。

計画、今現在、先ほど金繁委員が言われましたように、策定のほう準備を進めております。その中に具体的な内容を盛り込むところもあるのかということについてなんですけれども、例えばなんですけど、もうちょっと期間が切れた旧の計画にはなるんですけれども、皆さんにちょっとお配りしてなくて、以前お配りしているもので、お手元にない方もおるんですが、こういう形で運行状況図というものがこの計画の中ではうたっております。今時点、例えばあいなんバスに限っていいますと、現在運行しているところはこの計画の中はうたっていくことになるだろうというふうに考えています。ただ、この計画の中に、例えば具体的な運行路線をうたったからといって、その後運行路線は変更できないかということをお問われますと、必ずしもそうではありません。この計画期間中においても運行路線ですね、一部変更したところもございますし、昨年度も一本松地域のところでは変更しているところがございますので、そういったところは御理解をいただければと思います。

それと、計画の策定の趣旨から申しますと、どちらかという具体的な取組というのはなかなか書きにくいといえますか、というふうに考えております。愛南町はこれまであいなんバスの運行からはじめ、例えば他の委員会でも御協議をさせていただいたというふうには聞いておりますが、交通弱者の支援の施策なんかもこの中には盛り込まないといけないかなというふうに思っております。現状そちらのほうの書きっぷりが、今後いろいろと町民の方々のニーズとか行政サービスの必要性に応じて変更が生じる場合もありますが、あくまでこれは計画策定時点でありますので、状況に応じての修正といえますか、変更は以降も生じるのではないかなというふうに思っております。

以上です。

○石川委員長 金繁委員。

○金繁委員 ありがとうございます。よく分かりました。

既にアンケートを実施されていると思うんですけど、その結果をですね、2,000名のね、町民の方にアンケートを送って半分ぐらい返ってきているとは教えていただいたんですが、内容はこの委員会でシェアしてもらったらどうですかね。そうしたら、また見えてくるものもあるかと思いますが。

○石川委員長 立花総務課長。

○立花総務課長 アンケートの集計結果につきましては、当委員会のほうに御提供できるというふうに思っております。ただ、御提供するところにつきましては、もし可能でありましたら、先ほど申しました12月20日に地域公共交通会議に諮りますので、ほぼ同タイミング、あるいはそれ以降というところで御提供を考えたいなというふうに思っております。

以上です。

○石川委員長 このアンケートは乗車されている方のアンケートなんですか。それとも一般の方も含めてアンケート取られていますか。

立花総務課長。

○立花総務課長 お答えさせていただきます。

アンケートの対象者につきましては、乗車している方を対象にしているものではございません。一般町民の方の中から2,000人を抽出してお送りさせていただいて、先ほど金繁委員からおっしゃっていただいたように、約47%の方の割合で回答をいただいている状況でございます。

○石川委員長 金繁委員。

○金繁委員 交通弱者の視点も入れていくということなんですけど、計画に。その交通弱者の方たちの意見聴取というのはされましたか。

○石川委員長 立花総務課長。

○立花総務課長 お答えさせていただきます。

交通弱者の意見を聞く会を設けるようにということは、過去の議会の中でも執行部側に対して御意見をいただいておりますので、今回の計画策定に合わせましては、障がい者団体の方、あるいは老人クラブ関係者の方、あとはまだ調整中ではありますが、民生委員の方、全員にはちょっと難しいかもしれませんが、そういった生活に密着して活動されている方、当事者であるような方に御意見を承りたいというふうに考えていて、一部御意見を今いただいているところでございます。

以上です。

○石川委員長 金繁委員。

○金繁委員 ぜひその結果も、アンケート結果と併せて、ここでシェアしていただけたらと思います。

○石川委員長 立花総務課長。

○立花総務課長 そのように対応させていただきます。

○石川委員長 ちょっといいですか。この乗車されている方の要望とか、アンケートじゃなくてもいいと思うんですけど、そういうのを年に1回か取りまとめているようなことはあるんですか。

立花総務課長。

○立花総務課長 年に、例えばいつからいつの期間という形では設けておりません。コミュニティバスの利用者に関しましては、随時運行に関してなどに御意見はいただいておりますので、その御意見については、例えば協議をする内容が必要であれば、委託先の業者のほうと協議をさせていただいて、御要望にお応えできない場合も当然でございますが、意見のほうは承って協議をさせていただいております。

以上です。

○石川委員長 原田委員。

○原田委員 今、総務課長が言うたんですが、そういったアンケートとかそういった乗車した人の意見、そういうのをまた改めてこの委員会で提出していただいて、それからまた、協議に入るということでどうでしょうか。

○石川委員長 総務課長、12月20日以降で会が閉まった以降で、そのアンケートも含めてですね、取りまとめていただいて報告、この当委員会に報告をいただけますか。

立花総務課長。

○立花総務課長 当委員会のほうでそのスケジュールで構わないとおっしゃっていただけるようであれば、そのように対応させていただければと思います。

○石川委員長 皆さん、よろしいですか。12月20日以降ということで。

吉村委員。

○吉村委員 それも含めなんですけども、ちょっと総務課長、確認なんですけど、これ、さっき原田委員からもどういうふうに持っていきたいんかというんで質問出とったんですが、これ、旧一本松で平成7、8年に初めて町内に走らせたのがスタートやったんです。当時、今回もこの愛南町になってあれの中でですね、宇和島自動車に今町のほうから3,800万円ぐらい払っているのかな、今。年間ね。その宇和島自動車との兼ね合いで、乗車率を上げるがためにここをここをというても、その兼ね合いもあったり、これなかなか机上の部分だけで、そうしたら路線変更とか、細部にわたって交通弱者のいう部分をあれしよったら、これなかなか前に進まんのやないかと思うんですよ。それと、併せてですね、これ老婆心ながらなんですけど、これも何年

も前から私思いよったんですけども、今愛南町では福祉タクシーとこのバスと。これ将来的に弱者がどんどん増えていく中で、果たして財政的にこの二つの両立ができていくのかと。なかなか財政面を考えたら、交付金は減ってくる、弱者は増える。これ大変な問題につながっていくんじゃないかなと。この大きい面で言うたらですね。それらを併せてしよったら、前者の変更もそうですし、こうした弱者もなんなんですけども、何年か前にですね、地元の人から路線変更のお願いがということで、地元いうたって町内ですよ、・・・のほうじゃなくて、あったんですけども、言いよったように、勝手には変えられんということで、最終的に会に諮って変わった。ところが、そこで3人乗ってた人らが乗車率は上がった。ところが、けがをしたり施設に入ったりして全くすぐゼロになったと。こういうことはあり得るんですよ、これから。だから、そうやけんいうて、取り入れんとかどうのこうのじゃないですけども、やっぱしそういうことを加味しながらあれしていかないけんかと思うんですけども、これまず、総務課長、ちょっとその辺の見解はそうやと思うんですけども、ちょっと回答だけ。

○石川委員長 立花総務課長。

○立花総務課長 お答えさせていただきます。

今、吉村委員が言われたところは大きな課題だと捉えております。コミュバスの運行に関しましても、個人から寄せられる要望、当然多く寄せられています。例えば事例で申しますと、先ほど言われたここにバスが欲しいというところで、路線を一部理解をもらいながら変更したとしても、数年後にはそこで乗車をされないバス停、路線、一部の区間においても生じてきているところですよ。

それと、交通弱者、誰がというわけではないんですけども、やっぱり利用者の立場からすると、利便性が高いに越したことはないので、できるだけ家の近くまで来てほしいというような声も寄せられております。ただ、バスとしての運営の核心といいますか、そういうところを捉えますと、なかなか個々の要望には応えきれないというふうに考えています。御理解をもらいながらこれまでも運行に努めてきているというふうには捉えているんですが、先ほど吉村委員が言われました、その財政面のところも含めてになるんですけども、今年度の当初予算ではコミュニティバスだけで7,400万円余りの予算計上とさせていただいております。バスを定期的に変えることをちょっと除外すると、毎年多分このぐらいの経費のほうは必要になってくるだろうと。それとはまた別に、高齢者の方を特に対象とした福祉タクシー助成でありますとか、この運用についても一部課題があるというふうには捉えています。それと介護タクシーを利用される方への助成でありますとかというところがございます。

俯瞰的に全部見ますと、コミュニティバス、基幹の宇和島のバス、それと、最後につけております資料にありますように、それぞれの5地域のほうにはタクシー事業者があり、介護タクシーがありということで、今現在考えておりますのは、幸いなことにタクシー業者のほうも旧の5地域のほうにそれぞれありますので、今の交通基盤体系を確保できている間はコミュニティバスの運行も、いろいろと声は寄せられてはいるんですけども、一定程度は理解をしていただきながら、経費はかかりますが、運行はできるだろうなというふうに見通しております。ただ、公共交通と位置づけておりますタクシー事業者が仮に大きく縮小していくということになると、やっぱり町内の交通基盤というのは大きくまた見直すことを考えないといけないのかなというふうに、今時点では思っております。

御指摘のように、中長期的に見たときに、このままの形態がずっと維持できるかどうかは大きな課題というふうに捉えておりますので、この御回答で御理解を現時点ではいただければと思います。

以上です。

○石川委員長 原田委員。

○原田委員 このジチタイワークスですよ、これこの間ちょっと何か見たんですけど、デマンド

型というのがこれに載っていますよね。予約制の交通手段なんですけど、これは総務課長、これ将来愛南町としてですね、このデマンド型交通という、そういった計画というか、これに変更するというような考えはどうか、今のところ。ありますか。

○石川委員長 立花総務課長。

○立花総務課長 デマンド型交通の導入につきましては、過去もずっと協議をした経緯もございますし、過去の議会の中でもそういう取組導入は考えていないのかという投げかけもあったかと記憶しております。他の先進地というわけではないんですけど、導入している自治体を見ますと、一定程度成功している自治体もあれば、数年たってやはりその自治体にはマッチしなかったというところで、終了した自治体もあるようです。

先ほどちょっとお答えしたところに関連はするんですが、デマンド型タクシーの利用については、タクシー業者への影響も多少なりともあろうかと思えます。例えばデマンド型交通を導入するということになると、オペレーター、事前予約ということがありますので、そういったオペレーターのほうを設置しないといけないという環境で、人件費のほうも一定程度かかるだろうと。例えばデマンド型交通を導入するに当たるところで、現時点での捉え方なんですけど、町内には一応5地域、先ほど申しましたように、タクシー事業者がございます。タクシーの一番の魅力はドア・ツー・ドアというところで、道路環境にもよりますが、御自宅近くまでタクシーが来ていて目的地まで移動ができるというところがありますので、その環境が整っている間は、今の愛南町にとって急務にですね、デマンド型を導入をする必要は、今時点ではないかなと思っております。

この導入については、地域公共交通会議の中で、やはり移動手段として必要なところで有効な自治体も当然ありますので、協議をしていながらこの計画の中の位置づけというのはどうなるのかなというふうに示されると思えます。先ほどの資料提出と同様に、例えばデマンド型交通の在り方というのは、今年の協議する中で、現時点で整理をさせていただこうと思っておりますので、資料の提出と合わせてですね、その辺の御説明もさせていただこうかなというふうに思います。

○石川委員長 池田委員。

○池田委員 今ずっと話に出とると思うんですが、全てのバス業者、タクシー業者と総合的に考えていかんといけんということで、今タクシー業者の現状はどういうふうに捉えておりますか。例えば平城タクシーなんかは1台ですかね、1台で一人の運転手さんとか、そういういろんなあれがありますし、また、ちょっと将来相対的に考えないけんよくなると思うのが、また介護タクシーですよね。介護タクシーも1者。これもまた、従業員さん高齢になつとるとか、いろんな事情があると思うんですが、その辺はどのように考えておられますか。

○石川委員長 立花総務課長。

○立花総務課長 お答えさせていただきます。

今、言われたところも当然大事な現状になるかと思えますので、今回の計画策定に当たってはですね、タクシー業者さんのほうにも個々に、経営がありますので細かいところまでお聞きすることはできないかなと思えますけれども、ここ数年の利用者の推移でありますとか、従業員の雇用状況でありますとか、そういったところもお聞きして、経営に関わることでありますのでむやみに何もかも聞けることではないとは思いますが、現時点で経営がどういうふうな見通しを立てられているのか、参考としてお聞きして。ただ、その事業者さんに影響があるような公表は当然すべきではないと思っておりますので、その辺タクシーの現状についても確認はしたいというふうに、今担当者のほうとは話をしているところです。

それと、介護事業者のところなんですけど、町内に1事業者ありまして、必要に応じて高齢者の方を中心に利用していただいているというところなんですけど、この事業者さんも含めてですね、現状についてはお聞きしようと思っております。経営的に厳しい現状も多分見通しされて

いる部分もあるんじゃないかなと思いつつも、なかなか行政が安易に助成でという形でも取りにくい部分もありますので、現状、それと可能な範囲内で見直しをお聞きして、この公共交通計画、先ほど金繁委員が言われました、その具体的などころはうたえなかったとしても、中期的な視点、こういう課題が今後あるというところはある程度やっぱり押さえておかないと、計画を策定する意味はないのかなというふうに思っております。

以上です。

○石川委員長 金繁委員。

○金繁委員 タクシー業者さんたちの現状、私も利用させてもらうたびに「景気どうですか」と聞くんですけど、皆さん口をそろえて「よくないです」というふうにはおっしゃっていますよね、特にコロナの後、宴会とかなくなって、その送迎もなくなってという話はよく聞きます。

それで、自分でちょっと9月議会の質問の関連でもあり、調べていたら、300メートル、ちょっと具体的な話になって恐縮ですけど、距離制限を愛南町は福祉タクシーにしていますけど、それを撤廃することによってそのタクシー業者さんの事業収入がかなり増えたという結果の報告が、プレゼンテーション資料が中国運輸局だったかな、のプレゼン資料がありました。だから、地域経済にも貢献するんですということが書かれていたんですね。こういう過疎地なので、その例も過疎地でしたけど、大都会でもなければ、やはり交通と医療というのは大赤字になるのは当然で、そこにこそやっぱり公共サービスの価値という、やらなければならないところなので、ただ、際限なくはできないので、ある程度やっぱり合理的に、だけど弱者はできるだけ少なくという視点でしてほしいと思っています。

そういう意味で、今までの予算が、一つ一つ頂いている施策成果報告書とか決算報告を見たら分かるんですけども、ある程度まとめた財政的な現状と見通しのようなもの、それから、先進事例、これは議会のほうで調べたほうがいいかもしれないんですけど、先進事例はどのぐらい過疎地でも使っているとかいうのをちょっと見て、全体としてどこまで踏み込んでやるべきなのかという俯瞰的な視点も持ったほうがいいのかなとちょっと思ったんです。これは質問というよりは、できれば財政のことはちょっと出していただけたらと思うんですけど。

○石川委員長 立花総務課長。

○立花総務課長 私のところでお答えをさせていただく範囲内になろうかと思うんですけども、公共交通計画を策定する上で、吉村委員が先ほど言われたみたいに、財政的なところも考慮しながら全ての満足度100%というのは現実的にはなかなか、うちの財政規模から考えると難しいと。ただ、やはり全体の公共交通に係る経費がどの程度かかっているのか、やはり事務局としては押さえておかないといけないというふうに思っております。

そうはいっても、そのタクシーに係る経費云々については、なかなか把握はできないところもございますので、あくまで行政、愛南町としてやっているコミュニティバス、あと吉村委員が言われました宇和島バスへの補助金、そういったところは具体的に行政で推移的には取れますので、事務局的には持っておきたいなというふうに思います。プラスアルファ、タクシー助成の経費がどう推移しているのか、というところは押さえないなというふうに思っております。

確かに金繁委員が言われましたように、300メートルの云々についても、先般の議会でも御質問があったりとかしまして、その際の答弁、執行部側の答弁が今検討しているというところでありました。具体的などころについては、それぞれの所管担当課のほうで協議をし、最終的にどういう形態になるかは、また必要に応じて御説明をされると思うんですが、今回の交通計画を策定を機にですね、先ほどお答えさせていただきましたように、ある程度、総務課であればコミュニティバスの利用者が主な対象者、高齢者支援課では福祉タクシーの高齢者の方が主な対象者、保健福祉課であれば、例えば障がい者の多い介護タクシーでありますとかが対象者というところで、それぞれあるんですけども、横断的にこの辺の内容は共有をして今現在も努めておりますし、例えば改善がなされなかったとしてもこういう課題は残るよね、という

ところは共有するように努めているつもりであります。

以上です。

○石川委員長 金繁委員。

○金繁委員 この委員会として、どこまで具体的なものを出すか、先ほど吉村委員がおっしゃっていたことと重なるかとは思いますが、産業厚生がたたき台、今度の12月で発表する公共交通の報告書をさっき見ていたんですが、全体的なこと、公平性を持ってほしいというようなことを書かれています。うちはやっぱりアンケートも得て、もっと踏み込んだ具体的なことが一つでも言えたらいいなと思っていて、時間はもうそんなに考えなくても、やっぱりきっちり研究できたらと思うんですけど、その辺どうですかね。

○石川委員長 せっかく予算もつけてですね、バスなんで、これをとにかく短期的には乗車率を上げて、住民の利便性を上げるというふうな方向に行けば一番いいのかなというふうに思っています。中期的な視点も、当然財政的な部分も含めてですね、見てはいかないといかんですが、それをやるとですね、時間が全然足りないような気がしていますので、まず短期的に何ができるのかというのをやっぱり決めて、アンケートを聞いてですね、短期的な視点でですね、どうしたら乗車率が上がるかと、住民の利便性が上がるかという視点で考えていきたいというふうには思っています。

吉村委員。

○吉村委員 そうしたら、そのスケジュール、さっきあれしよるけど、12月議会のあれには間に合わん。

○石川委員長 12月じゃない、継続にはなるんですけど。ただ、中期でですね、やろうとすると、多分1年、2年とかいうスパンで、これ調査していかないと、かなりのボリュームになると思うんで、そういう意味からしたら、展望までは出せるでしょうけど、短期で乗車率を上げてですね、せっかく公共交通として財政負担もしていますので、それはやっぱり町民の利用率を上げていくというふうな観点からですね、町民の満足度を上げるという意味からしてもですね、短期でそういうことを考えるのがいいのかなというふうに思っております。

あと、説明員に対する質問は何かありますか。ないですか。

吉村委員。

○吉村委員 公共とは違うけども、タクシー業者も圧迫されているのが代行業者よ。代行は今何社あるの、実態は。町内で。つかんでないですか。

○石川委員長 立花総務課長。

○立花総務課長 代行、町内事業者はちょっと確認は取っておりません。

(発言する者あり)

○石川委員長 吉村委員。

○吉村委員 これ意見やないけども、これちょっと聞いたのは、友達が多いんで、よう宿毛に呼ばれるんよ。大宴会まではしてないんやけど、自重して。ただ、宿毛の代行よりこっちの代行呼ぶほうがずっと安いわけよ。それは宿毛の代行屋も「もううち使ってもらうのはありがたいけども、こっち呼んでください」こっちのほうが安い。確かにあれしたら1,000円安い。ほんで、一生懸命PRしよるのやけど、やっぱりやめたところまだある。でも事故起こさんけん問題がないわけであって、事故が起きたら一発やろう。分かった。

○石川委員長 ほかに質問ないですか。

なければ、総務課の方には、説明員の方には退席をお願いします。

(執行部退席)

その他は何かありますか。

次回のですね、予定は12月の20日以降に委員会の招集させていただきたいと思っております。

(発言する者あり)

○尾崎副委員長 何ものければ、以上をもちまして総務文教常任委員会を閉じたいと思います。お疲れさまでした。

委員長